

「JENESYS2.0」

中国リハビリ関係者代表团

訪問日程 平成 27 年 4 月 14 日（火）～4 月 21 日（火）

1 プログラム概要

中国リハビリテーション研究センターが派遣した中国リハビリ関係者代表团計 34 名が、4 月 14 日から 4 月 21 日までの 7 泊 8 日の日程で来日しました。（団長＝李建軍（リ・ケングン）中国リハビリテーション研究センター主任）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、厚生労働省や JICA、東京・鹿児島・福岡の病院などの訪問や関係者との交流を通じて、日本の青年や市民との親睦を深めたほか、日本の最先端技術や歴史的建造物の見学、日本文化体験などを通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

4 月 14 日（火）

羽田空港より入国、Honda ウェルカムプラザ青山見学、オリエンテーション

4 月 15 日（水）

皇居二重橋見学、厚生労働省による講義、浅草寺見学、江戸東京博物館見学、歓迎会

4 月 16 日（木）

山王病院訪問・視察、三田病院訪問・視察、独立行政法人国際協力機構（JICA）本部表敬訪問

4 月 17 日（金）

鹿児島へ移動、米盛病院訪問・視察、米盛病院職員との交流会

4 月 18 日（土）

米盛病院訪問・視察、奄美の里見学、さつま無双（株）焼酎蔵元見学

4 月 19 日（日）

福岡へ移動、商業施設視察、和風旅館での日本文化体験

4 月 20 日（月）

柳川リハビリテーション病院訪問・視察、高木病院訪問・視察、福岡山王病院訪問・視察、
歓送報告会

4 月 21 日（火）

九州国立博物館見学、太宰府天満宮見学、福岡空港より帰国

3 写真



4月14日 Honda ウェルカムプラザ青山見学
(東京都)



4月15日 皇居二重橋見学 (東京都)



4月15日 厚生労働省による講義 (東京都)



4月15日 浅草寺見学 (東京都)



4月15日 江戸東京博物館見学 (東京都)



4月15日 歓迎会 外務省アジア大洋州局
中国・モンゴル第一課 川田地域調整官による
歓迎挨拶 (東京都)



4月16日 山王病院訪問・視察（東京都）



4月16日 三田病院訪問・視察（東京都）



4月16日 JICA 表敬訪問 柳沢香枝理事（右）
に記念品を贈呈する李建軍団長（東京都）



4月17日 米盛病院訪問・視察（鹿児島県）



4月18日 米盛病院訪問・視察（鹿児島県）



4月18日 奄美の里見学（鹿児島県）



4月18日 さつま無双（株）焼酎蔵元見学
（鹿児島県）



4月20日 柳川リハビリテーション病院訪問・視察
（福岡県）



4月20日 高木病院訪問・視察（福岡県）



4月20日 福岡山王病院訪問・視察（福岡県）



4月20日 歓送報告会で訪日の成果を発表
（福岡県）



4月21日 九州国立博物館見学（福岡県）

	
4 月 21 日 太宰府天満宮見学（福岡県）	

4 団員の感想（抜粋）

- 1. 日本文化について。今回の活動では、皇居・二重橋、浅草寺、江戸東京博物館、奄美の里、焼酎蔵元を参観した。日本の天皇制度や仏教、東京の歴史、着物の製造工程と着付け、デザイン、焼酎の醸造過程、温泉旅館「泰泉閣」での入浴体験など、異なる角度から日本がどのような国かということを理解し、中国文化との共通点や相違点を知ることができた。
2. 日本の病院、およびリハビリテーションの管理と技術。厚生労働省による「障害者政策とリハビリテーション施策」と「高齢者政策とリハビリテーション施策」、国際協力機構（JICA）による「JICA事業の概要」と「JICAと中国リハビリテーション研究センター 協力の歴史」を通して、障害者に関する問題の解決は、障害者自身だけではなく、社会全体の問題であると分かった。慢性的な疾病や高齢化といった原因で、障害者人口は増加の一途をたどっている。どうすればより良いサービスができるのか、国は関連策を講じる必要がある。病院も障害者の違いに則った管理を強化し、リハビリ人材を育成し、データを掘り起こして、関連機関へのアドバイスや政策決定のサポートを行う必要がある。病院6施設を視察した感想は、どの施設でも患者を第一に考え、さまざまな視点から患者を思いやっているということだ。私の専門は情報管理だが、病院のサービスをより良くするためにどうやって情報を使えばよいのか、その管理方法についても影響を受けた。情報の共有によって病院運営をより良く回すこと、関連プロセスの再考と分析の必要、病院の情報と設備を理解した上で各病院各部門の情報システムを統合し、そのシステムの管理について優れた運用モデルを作ること。これらはすべて、今回の視察で考えたことだ。
3. 日本人の仕事態度。皆が規則や制度を守り、職務に全力で取り組み、いつも真剣だ。
4. その他。8日間の視察・交流活動を通して、日本人スタッフの真面目な仕事ぶり、団員たちの団結と互いへの思いやり、団長、副団長、秘書長からの言葉に触れたことは、私個人の素養と仕事面の成長に役立ったと思う。

以上が特に印象的で、帰国後同僚たちに伝えたい内容だ。次の訪日団が実施されたら、その参加者と経験を分かち合い、互いに高め合いたいと願っている。

- 1. 医療管理機関の簡略化された人員配置
2. 従事者の効率の高い仕事ぶり
3. 非常に公平な従業員評価制度

4. 社会全体を対象とした優れた社会保障、医療保障システム
5. 一流の環境、一流の施設、一流のスタッフがそろった視察先の病院
6. 帰国後、日本人の緻密な仕事ぶり、科学的な防災措置、現代化された医療サービスを友人たちに紹介したい。
7. 自分の専門分野について。日本の高齢者リハビリテーションは、人間本位の考えのもと、とても成熟している。しっかり吸収して帰りたいと思った。
8. 日本の社会復帰の現状と制度に対する理解を通して、人に優しくをモットーに、患者の満足度を基準にしながら、中国の脊髄損傷患者の社会復帰の状況を改善したいと思った。
9. 日本は公共交通機関が発達しており、道路渋滞はほとんど見られなかった。日本人はもてなし好きで、礼儀正しく、笑顔で心のこもった対応をしてくれる。私たちも見習いたい。

○8日間の短い訪問がもうすぐ終わろうとしているが、忘れがたい経験となった。充実したプログラムで、厚生労働省への訪問では、高齢者と身体障害者のリハビリテーション施策や、医療保険や社会復帰のための保障など政策面の内容を理解すると同時に、3都市にまたがる6施設の病院（総合病院、リハビリテーション病院、整形外科の救急を特色とする病院が含まれていた）を視察し、日本のリハビリテーション病院の運営や管理モデルについて知ることができた。そして、人に優しいリハビリ方法と先進的な医療設備にとっても感心した。このほか、江戸東京博物館など、日本の伝統文化に触れることができる参観先が数多く組み込まれ、文化や歴史に触れるとともに、日本人の周到的な仕事ぶりと効率の良さ、礼儀正しく謙虚な姿勢を感じることができた。帰国後は、この数日間で見聞きしたことや感じたことを友人や同僚、家族らに伝え、もっと多くの人にこの尊敬に値する国について理解してもらいたいと思う。

○この7日間の学習で、病院における教育・管理について多くの収穫があった。視野が広がり、違いに気づき、知識を増やせたと思う。まず、日本全体の印象について、「1美3強」とまとめられる。すなわち、「生態系が美しく、人的・文化的分野、科学技術、経済が強い」ということ。生態系が美しいというのは、清潔な道路や、整然と作物が植えられた田畑から見て取れ、人と自然が調和・共存している感覚を受けた。経済については、庶民も豊かであるというのが日本全体の印象だ。今回視察した病院6施設と厚生労働省、国際協力機構（JICA）本部に絞って述べると、日本の完備された医療システム、効率の良い運営管理、人間本位の医療理念に触れることができた。いくつかの病院では、救急治療とリハビリテーション、オペ室とICU（集中治療室）の連携を重視し、多くの病棟にそれぞれリハビリ訓練室が設けられていた。医師と患者の関係は和やかで、互いに信頼、尊重し合い、病院は患者の立場で考え、その健康を守っている。

このほか、私自身の教育管理という仕事に関連して述べると、最も印象的だったのは、米盛病院の人材育成計画だ。自己成長型のキャリアアップの枠組みを作り出し、立派なラーニングセンターも設立し、医療レベルの向上を図り、医療スタッフと病院がともに成長している。こうした優れた管理理念を中国のリハビリ研究センターに応用し、中国のソースを使って中国に適した人材育成システムを発展させた。

○1. 通訳さんはアテンドの際、時間や場所、重要事項について、細かなところまで繰り返し確認していた。何をやるにも大事なポイントがたくさんあり、それを何一つミスすることはない。これは私たちが学ぶべきところだと思う。

2. 高邦会グループの病院の理念は「生命の尊厳、生命の平等」。医療行為は体と心への慰めであるという考えは、西洋医学の中の、時には治療を施すが、通常は緩和措置を行い、常に癒やしを与えるという理念と図らずも一致する。身体障害者を相手にする医療行為に携わる者として、ヒューマンケアによ

り力を入れ、病人が自分の障害を受け入れ、尊厳をもって新しい生活をスタートし社会復帰できるようにしていかなければならない。

3. 添乗員さん、通訳さんには個人的なことで助けていただき、感謝している。東京を離れる際にスキンケア用品をホテルに忘れてきてしまい、添乗員さんが次の滞在先への郵送手続きをしてくださった。後で郵送費を払おうとしたが、彼は受け取ろうとしなかった。彼にとっては規定外の仕事だが、完璧にこなしてくれたことに感動したと同時に、対外的な仕事につまらないものなどなく、個人の行いがその国のイメージに繋がるのだと気づかせてくれた。活動中の4月15日に私は誕生日を迎えた。スタッフの皆さんが心をこめてケーキやプレゼントを用意してくれたので、感動で泣きそうになった。日本人がディテールを重視し、きっちり仕事に取り組むことや、人の気持ちを大事にする人々であるということを感じた。

私たちも、日本の進んだインフラ、気の利いたサービス、用意周到さ、環境保護の重視、一心に研鑽を積む匠の精神を学ぶべきだと思った。